

丸之内通信

關門隧道に特殊な地質調査

潮流渦巻く本州と九州との間の關門海峡下を貫く海底トンネル十キロの掘鑿工事の鉄入れ式は去る九月十九日盛大に行はれたが鐵道省では、この劃期的工事の完成方針を確立してから或は省内に關門トンネル係を設け、或は下關改良事務所を新設する等この難工事完成に万遺漏なきを期してゐるが、難工事中也つとも懸念されてゐる地質調査の完璧を期するため従來の地質調査ボーリング法より一層精密なる彈性波式地質調査を行ふことになつた。この彈性波式調査法は一九二六年スエーデンのシルンベルグ氏に依つて始められたもので地質調査の目的の區域

内で、ダイナマイトを爆發させて地層内に波動を起さしめるものであるが、若し地層内に岩鹽柱とか或は火山岩のやうな周圍の水成岩と密度の違つた物體が介在してゐる場合にはその波動はその物體内で屈折し或はその表面で反射を行ふ故各所に地震計を据ゑて震源地から直接に來る波動、反射乃至は屈折し來る波動を捉へ岩鹽の如き物體の所在を知るのであるが、この方法はアメリカ、カナダ等で鐵脈發見に廣く採用されてゐるが地質調査のためにはボーリング法よりも遙に精密である上、時間、費用もボーリング法よりも十分の一以下で済む、關門トンネルの地質調査にこれを應用し海底で火藥を爆破し人工地震を起させ兩岸に地震計を三箇宛置いて震動波の速度を記録し震動波を還元すれば彈性波であるからそれに依つて速度を記録しこれ等を綜合して海底の地質状態を探究するものであるが、この結果によつて海峡下の地質全體が一層判然となり、難工事遂行に非常な便宜を與へるものとして多大の期待がかけられてゐる。このため大臣官房地質研究所長渡邊貫博士が十月十日より約一ヶ月關門地方に出張することになつた。

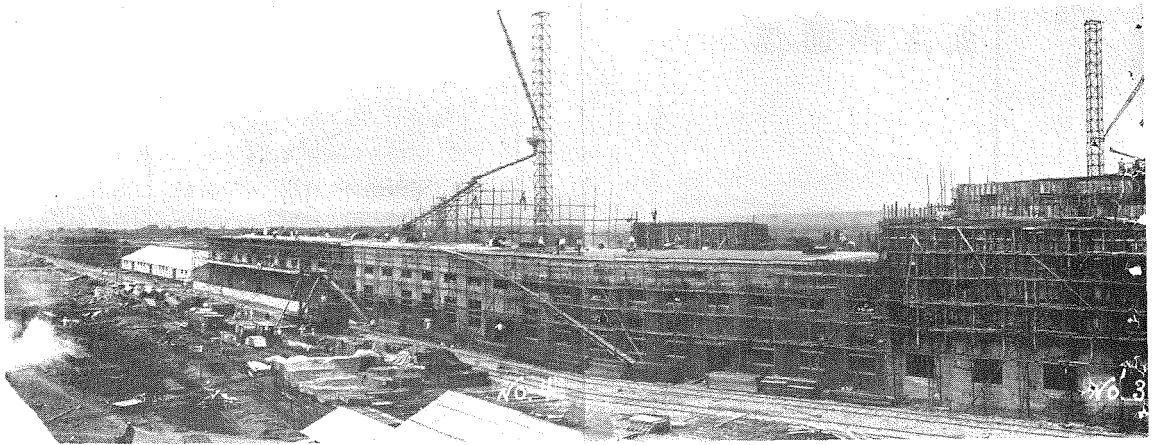
サンフランシスコ・オークランド橋竣工

總工費七千八百萬ドル(邦貨二億六千萬圓)を投じク底なしの海とよばれるサンフランシスコ灣にかけられた世界一の大鐵橋——サンフランシスコとオークランド間の架橋工事はいよいよ近く完成、十一月十一、十二の兩日に互り大々的に記念祝賀會が行

サンフランシスコ オークランド灣橋

全長11キロ、世界一の長橋は、灣の中央にあるエルバ、ウエナ島で隧道を以て連絡されてゐる。寫眞はサンフランシスコ側橋梁の雄姿。





北鮮製紙化學工業株式會社

吉 州 工 場

はれることゝなつた。

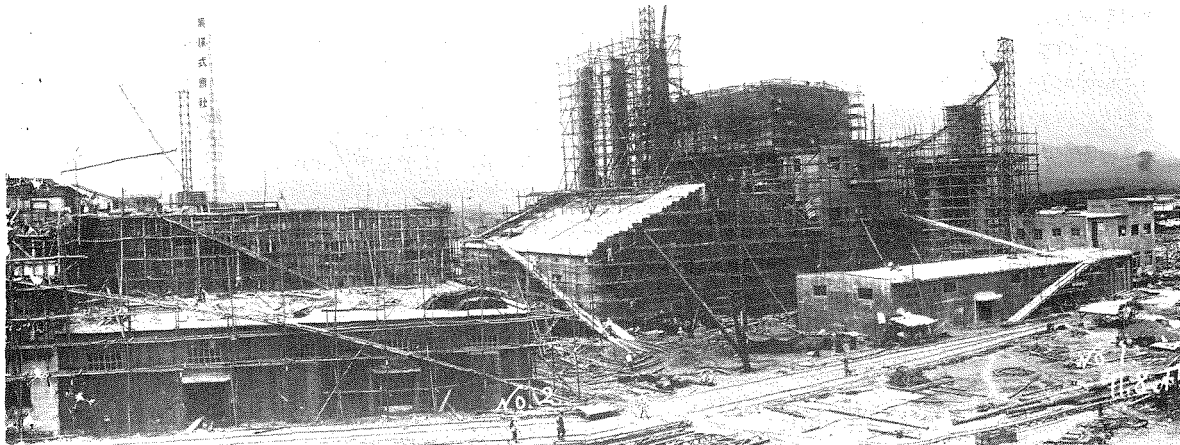
カリフォルニア州が聯邦政府の補助を得て1933年8月から着工したもので總延長8¹/₄マイル橋から水面まで218フットでどんな巨船でも自由に航行が出来る、上下兩層に分れて上橋には6條の自動車道路下層に3條のトラック道路と2條の電車道路があり上橋には夜でも眞晝のやうに照らす電燈を150フットの間隔で建てた、所々に警察分署と電話室を作り、橋上の事故には早速出かけられるやう設備し全く一個の橋上都市である。一年年優に三千萬台の自動車を通す自動車道路は既に完成してゐるので特別希望の學生及び技術家に對しては試験的に通過を許してゐると云ふ。

東電信濃川發電所起工

東京電燈信濃川發電所はいよいよ工事費五千三百萬圓で着工に決定、十九日中魚沼郡外丸村の發電所敷地で盛大な起工式が行はれた。上流は飛鳥組が一千百八十萬圓で下流は大林組が六百七十萬圓で請負ひ土工々事を進め更に年内に發電所及びトンネル工事に着手することになり、鐵道省信濃川發電所と共に二大工事が進められる譯で中魚沼は電氣景氣に湧き立つてゐる。

日電黒部川第三期工事認可

昭和九年五月から開始された富山縣下黒部峡谷の日電第二期發電工事は未曾有の難工事を續け多數の犠牲者まで出したが豫定より三ヶ月も早くこのほど竣工いよいよ九月十五日通水試験を行ふことになつたので直に逓信省に發電許可を申請し許可あり次第發電を(大體9月ごろ)開始することになつてゐるこの總工費一千五百萬圓、従業員十四萬人、なほこの第二期工事に引つゞき第三發電計畫を實施すべく同社が昭和四年黒部峽祖母谷附近に黒部川第三發電所建設計畫を樹てたが爾來黒部峽の保勝問題から地元との間に紛糾を生じ久しきにわたつて折衝を續けてゐたところ遂に日電側も計畫變更すなほち發電計畫を七萬七千キロに減少しさらに工事費を一千五百萬圓に増大し發電箇所を擇んに變更工事用軌道も地下鐵、エレグエーターなどもつてし黒部峽の奇勝を保全する更改計畫案の下に再出願中であつたが、これも七日付をもつて認可指令が發せられ、前後八年間紆餘曲折を見た第三發電計畫もいよいよ實現の運びとなつた、今回の工事計畫によれば黒部の奇勝をいさゝかも損することなくかへつて地下鐵またエレグエーターなどの新施設が實現するので従來鐘釣温泉から仙人谷まで行程一日を要したものが僅か一時間半で達せられ、殊に裏立山までエレグエーターで昇れるといふ超スピード登山が出来、黒部及び立山觀光客にとつて夢のやうな便利が與へられ



鉄筋コンクリート及鉄骨鉄筋コンクリート造7階建、建坪3,883.67坪、延4,682.32坪で他に練瓦及一部鉄筋コンクリート造の住宅その他(平家及2階建)2,275.51坪(延2,374.25坪)がある。昭和11年3月起工同12月竣工の豫定で株式会社銭高組の施工である。

黒部、立山の観光ルートも一層簡単になるわけである。

矢作尾添発電所許可

昭和二年石川県手取川奥尾添川に出力一萬五千キロの水力発電所設置を矢作水力電気会社が計畫逓信大臣宛許可出願したがたまたま電力國營問題の擡頭で一時期前途を危ぶまれておたところ去る十四日遂に大臣より許可の指令があつた。許可に當つては出力一萬五千キロの出願に對しこれを一萬七千キロに増大する事を條件とされてをりこれがため當然昭和二年設計當時の工費五百萬圓は増額される譯である。

而して発電所は尾添川及び手取川支流目付谷川に水源をとり能美郡尾目村字尾添に設置し本年中に工事に着手すべく日々手續をとることゝなつた、なほ同工事に對しては金名鐵道白山下驛から尾添まで廿五ホンドレールを敷設して工事材料の運搬を行ひ將來は會社専用線として夏期白山登山者の便宜に當てる計畫である。

澁谷池袋大塚驛前廣場改造

オリンピック東京開催までに東京の市内の窮屈な省線各驛を驛前廣場を持つた立派なものに改めようといふので東京市都市計畫委員會と鐵道とが協力して新宿澁谷、池袋、大塚の私鐵省線連絡驛改造を急

ぐことになり熱心に研究してゐたが都市計畫委員會では既に最後の決定を見たので鐵道側でも本年度から澁谷と池袋大塚の三驛驛前廣場大擴張に三ヶ年繼續事業として工事を起すことになつた。

鐵道の工費は三驛で百廿萬圓程度自動車乗降口歩行者乗降口を分離し自動車溜りやバス停留場等最新式の交通整理を完備した模範的驛前廣場とするが殊に綠樹地帯に注意を拂ひ我國獨特の樹木を植込んでオリンピックに集る世界人に印象的なステーションとする筈で工務局で設計中である。

また東京驛も驛前が砂利道で歩行者には歩きにくいといふ一日十萬の東京驛利用者は何れも市電の線路上を歩き驛前廣場の美しい綠樹地帯の歩道を歩く人は殆んどない状態なので、これもこの際自動車溜りの砂利場と共に舗裝して帝都の表玄関の體面を保つことになつたが、これは明年度から工事を起す筈である。

阿仁合線全通

省線鷹ノ巣、阿仁合間の所謂阿仁合線は地方民二十年間の努力が酬いられて漸く全通、9月25日阿仁合町で開通式を舉行したが歸省中の町田民政黨總裁も臨場した。

本線路は秋田縣北秋郡鷹巣町鷹ノ巣停車場を中心にして起り奥羽本線に沿ひて西進し南轉して米代川に橋

梁(12米9連、22米304連、19米20、12連)450米34を架し尙小猿部川(12米90、8連、22米30、1連)130米橋梁を経て上大野村に入り、同村大字川井地域に羽後上大野停車場を設置し縣道に並行して下杉上杉を走り米澤町向本城を抜けて平圃に出で、米内澤停車場を設ける。

之れより大阿仁川右岸に沿ひ山麓を繞つて前田村に入り桂瀬停車場を設く、更に南進して前田村小又の平地に阿仁前田停車場を置き續いて小又川に橋梁(12米90、14連)188米53を架し五味堀の高臺を過ぎ小様川橋梁を渡りて阿仁合町小淵に小淵停車場を設置し大又川に臨む山嘴に立岩隧道(147米)を穿ち阿仁街道を抜けて阿仁合町中央に阿仁停車場を設け、33軒314米78に終る、最急勾配1000分の25、最小曲線半徑200米である。

近づく新議事堂の竣工式

日本憲政史の一大金宇塔ともいふべき新議事堂はこの程殆ど完成、十一月五日には長く、皇上陛下御内覽の有難き御沙汰まで拜してゐるが、その落成式はその翌七日大藏省、貴衆兩院の三者合同の形式で舉行することに決定、関係者の間に着々と準備計畫

が進められてゐる。

落成式は六日午前十時から新議事堂正面玄関前の廣場に三千名を收容する大天幕を設備して式場であつて廣田首相、近衛貴院、富田衆院兩議長の挨拶、更に着工以來完成まで工事監督の重任に當つた大藏省營繕管財局衆議院臨時建築局本部長大熊喜邦工學博士の苦心の工事報告に續いて各方面からの祝辭が述べられる。

招待者は大正六年の新議事堂建設計畫豫算に協賛を與へた現存の新舊全兩院議員で、この外に軍部、官界、實業界の主要人物を剩すところなく網羅し式に續いて同處に午餐會が開催され正午過ぎ式を終了新議事堂の自由參觀を許すといふのが大體のプログラムであるが、この十時から約二時間の式に費される豫算は十萬圓、お祭り騒ぎではなく極めて嚴肅に行はれるとは云へ一時間當り五萬圓の豪華さだ。

晴れの日に際し逓信省は記念繪葉書と切手を發行東京市は祝賀花電車運轉をしAKでもこの國家的祝典を全國に放送することになる模様でありこの外の各官廳も大いに記念の共同動作をとる筈で彌が上にも晴れがましき議事堂落成式である。

編輯室より

九月二十日内務省神戸土木出張所長山内喜之助氏が逝去された。今月號に掲載した神戸港修築工事の圖や寫眞は先に同氏から贈られてあつたものである茲に掲載して記念とした次第、編輯室一同謹んで哀悼の意を表する。

× × ×

關門海底隧道と東電信濃川發電所が東西日を同うして起工され、又東京市水道小河内貯水池建設工事も愈々本格的着手の運びに至つた。これで三大工事が併立し各々技術の粹が傾注される事であらう。各工事關係各位の健康を祈つて止まない。我等は工事の進行に連れて誌上を賑すべく準備中である。

土木工事畫報 第十二卷 第十號		定價金七拾錢 (稅二錢)	毎月一回一日發行 一ヶ年十二冊發行
普通購讀料	昭和十一年九月廿六日印刷納本 昭和十一年十月一日發行	關西支局	
壹部七十錢 稅二錢 參ヶ月貳圓 稅共 六ヶ月四圓 同 一ヶ年八圓 同 外國一部 七十八錢 稅共	編輯兼印刷發行人 岡崎保吉 東京市豐島區長崎仲町二丁目三六二九	大阪市浪速區惠美須町2丁目13 工事畫報社支局 電話 戎86番	
注文は總て前金、送金は必ず振替貯金にて、東京七〇貳六五番宛拂込の事、但し六ヶ月以上の申込は御希望により集金郵便を差出します。	印刷所 共同印刷株式會社 東京市小石川區久堅町百八番地	大賣捌所	
	發行所 工事畫報社 東京市麴町區丸ノ内三丁目六 電話 丸ノ内二六三三番 電振 東京七〇貳六五番	東京堂・東海堂 大東館・北隆館	